魅力発信！えひめ農業

令和7年1月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、1月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
１月のトピックス５選 3
集落農業法人の経営目標を明確に 3
馬島特産の花きを県オリジナル品種のかんきつ栽培へ転換 3
松山市内のスーパーでさくらひめをプロモーション 4
ドローンを活用してかんきつの間伐を指導 4
首都圏での「媛小春」試食アンケートで高い評価を確認 5
えひめ農業 6
■東予地方局　地域農業育成室 6
令和７年産裸麦栽培の中間管理の徹底 6
「ひめの凜」栽培予定者への説明会 6
西条農業高校で GLOBALG.A.P.講習会を実施 7
「旬菜ボックス」の販売促進のための研修会を支援 7
■東予地方局　地域農業育成室　四国中央農業指導班 8
JA うま令和７年産「ひめの凜」栽培説明会を開催 8
認定農業者がレモン、甘平等を視察研修 8
■東予地方局　産地戦略推進室 9
ベテラン世代に環境制御技術を伝える 9
高品質生産に向けた「しきみ」の栽培講習会 9
■今治支局　地域農業育成室 10
ニホンザルの捕獲数が大幅に増加 10
阪神・淡路大震災の復興イベントで今治特産さといも「伊予美人」を PR 10
青年農業者が「紅まどんな」ハウスの団地化に取り組む 11
■今治支局　地域農業育成室　しまなみ農業指導班 11
スリランカ農業人材の受け入れ 11
上島町への移住就農に向けた取組みを支援 12
■今治支局　産地戦略推進室 12
しまなみみんなのディッシュ会員のデジタル技術による安定生産支援 12
イタリア野菜「バターナッツ」生産推進会議を開催 13
■中予地方局　地域農業育成室 13
担い手対策やかんきつの産地振興方策等について視察研修 13
就農予定者が天敵昆虫を利用した防除技術を習得 14
女性農業者等がスマート農業を学ぶ 14
SNS を活用した女性農業者の先進的活動事例を研修 15
■中予地方局　地域農業育成室　伊予農業指導班 15
農業女子「葉れるや」が売れる POP づくりに挑戦 15
青年農業者が愛大留学生にかんきつの魅力を発信 16

さくらひめ生産者らが県外の市場の動向を調査 16
■中予地方局　地域農業育成室　久万高原農業指導班 17
夏秋トマトの安定生産に向けた技術普及 17
町内飲食店での雑穀料理のメニュー化に向けて 17
■南予地方局　地域農業育成室 18
「ひめの凜」認定制度の改正を周知 18
リアルタイム低コスト施設内環境計測機器の実証 18
■南予地方局　地域農業育成室　鬼北農業指導班 19
農福連携研修会の開催 19
■南予地方局　地域農業育成室　愛南農業指導班 19
地域資源の活用による水田の生産性向上を目指す 19
■南予地方局　産地戦略推進室 20
つるむらさき生産者募集チラシを作成 20
■八幡浜支局　地域農業育成室 20
収穫期のかんきつ生産者の選果作業の省力化を目指して「AI 選果機見学会」を開催 20
マンダリン・シトラス合同スクール「農作業安全講習会」を開催 21
■八幡浜支局　地域農業育成室　大洲農業指導班 21
大洲喜多地区の担い手農業者等が「上手な農薬使用法」を学ぶ 21
かきの摘蕾作業の省力化に向けた実証を開始 22
大洲技連野菜部会で高温期対策について検討 22
■八幡浜支局　地域農業育成室　西予農業指導班 23
若手女性農業者組織が SNS 研修会を開催 23
データ駆動型農業に向け自作の環境測定装置を設置 23
■農産園芸課　高度普及推進グループ 24
データ駆動型栽培に係る第２回データ分析・活用講習会を開催 24
若手職員が地域課題を解決するプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催 24

１月のトピックス５選

標　題	集落農業法人の経営目標を明確に		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 10 日、14 日、16 日	場所	各法人事務所	
指導対象	集落農業法人（４法人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○組織の担い手確保に危機感を持つ４法人を対象に、中小企業診断士の協力を得て、経営診断に基づく組織の問題点と改善策を話し合った。 ○参加法人は、話し合った結果をもとに「将来にわたり農地を守るため、収量・品質を向上させ、収支を安定させる」と５年後の目標を定めた。			
結果と今後	○各法人は、目標達成に向け、課題である担い手の確保と経営収支の安定化のための具体的な行動計画を策定し、各組織内で役割分担等について申し合わせた。 ○地域外からの担い手確保のためには、安定した給与が支払えることが必要であることから、当室では、各法人に対し、里芋など高収益品目を取り入れた経営の見直し等について指導するとともに、担い手確保事例等の情報提供や確保活動を支援していく。			

法人組織での話し合い

中小企業診断士を交えた話し合い

標　題	馬島特産の花きを県オリジナル品種のかんきつ栽培へ転換		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 29 日	場所	今治市波止浜（馬島）	
指導対象	営農指導員（３人） かんきつ生産者（１人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○馬島では長年花き栽培が盛んだったが、萎凋病が蔓延するようになり、ハウスをかんきつ栽培に転換中で、今作のスイートピーを最後に「紅プリンセス」に変更の予定。当室は、５月からかんきつ栽培を初めた園主を定期的に訪問して栽培指導してきた。 ○JA 指導員が各地でせん定講習を始めるのに先立ち、当ハウスで「紅まどんな」のせん定講習を行った。本品種は年末贈答用の美麗な大玉果が望まれるが、その栽培ポイントを説明しながらせん定作業を実演、各地で講習会を行う際のポイントを指導した。			
結果と今後	○園主によると、初めての果樹栽培には不安も感じていたが、「紅まどんな」では前年度の４倍の収量があり、栽培に自信が持て不安が解消されたとのことである。 ○当室は引続き県オリジナル品種の栽培支援を行うとともに、JA 指導員の技術向上に尽力していく。			

JA 若手職員へのせん定講習

紅まどんなの大苗育苗

転換するスイートピーハウス

標　題	松山市内のスーパーでさくらひめをプロモーション		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 25 日	場所	フジグラン松山	
指導対象	―	連携機関	―	
普及指導内容	○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」の一環で、新たに卒入学式需要に向けたイメージアップを目的に、「さくらひめ」の PR 活動を松山市内のスーパーにおいて実施。 ○会場には、中予産さくらひめの生花と紹介パネルを展示し、来場者に対するプロモーションを行った。 ○アンケートの回答者 110 人を対象に、切り花のプレゼントを行った。			
結果と今後	○切り花のプレゼントは１時間弱で配布を終え、盛況のうちに終了。 ○会場での聞き取りやアンケート結果では、「優しい雰囲気で、お祝い事の際に送りたい」「初めて知ったので、今後購入したい」「さくらひめは知っていたが、愛媛県が育成した品種とは知らず、より愛着を感じた」「鉢物は家でもう一度咲かせることはできるのか」といった感想や質問が寄せられた。 ○引き続き、生産者や関係機関と連携しながら、さくらひめの夏季自家育苗による需要期出荷の実現と販売促進による認知度向上を図る。			

左：さくらひめを鑑賞する来場者

右：切り花のプレゼント

標　題	ドローンを活用してかんきつの間伐を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 14 日	場所	宇和島市吉田町立間	
指導対象	新規就農者（１人）	連携機関	―	
普及指導内容	○管内には樹齢の進展に伴った密植園地が多くあることから、当室ではかんきつ園地の作業性、収量および品質の向上を目指した間伐と園内作業道の設置を推進している。 ○ドローンを活用して園地を撮影し、永久樹と間伐樹を生産者と協議した後、間伐した。			
結果と今後	○新規就農者からは、「上空から写真を見て、間伐後のイメージが湧きやすい」「これで運搬作業が楽になる」との意見が聞かれた。 ○今後、当室では新規就農者を対象にした間伐と自主施工による簡易園内道の設置講座を開催するなど、園内作業の省力化を推進する。			

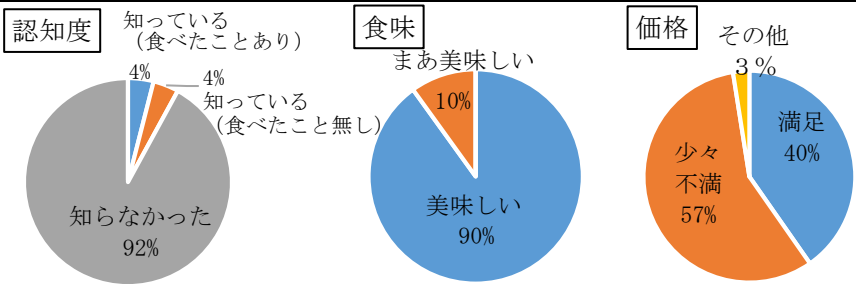
密植園

密植解消後

間伐による園内道

標　題	**首都圏での「媛小春」試食アンケートで高い評価を確認**		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室 南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 15 日～21 日	場所	香川・愛媛せとうち旬彩館	
指導対象	「南予の媛小春」魅力アップ協議会員	連携機関	（株）宇和島青果市場	
普及指導内容	○県オリジナル品種「媛小春」の認知度向上と販路拡大による産地の発展を目指し、東京で「愛媛・南予の媛小春等かんきつフェア」を開催した。 ○試食販売や試食アンケートを行い、媛小春を連想させる「こみきゃん」写真撮影会などで売り場を盛り上げた。			
結果と今後	○「媛小春」試食アンケートの結果、「知らなかった」92%と認知度が非常に低いことと、「美味しい」「まあ美味しい」100%と食味への高い評価等が確認できた。 ○価格は、今回、量が少なく外観に若干難のあるものを 1,500 円/kg と高値販売したこともあり、「少々不満」が 57%となった。ただし、不満とした回答者への「適正価格は？」の問いでは「平均 992 円/kg」と高い評価であった。 ○今後、この調査結果を踏まえ、一層の認知度向上に取り組むとともに、消費者の高評価を生産者へフィードバックすることにより、生産拡大を進める。			

試食アンケートの様子



「媛小春」試食アンケート結果（回答数 201 名）

えひめ農業

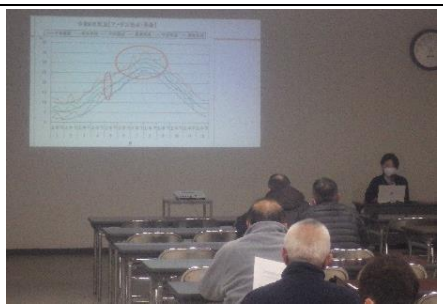
標　題	令和７年産裸麦栽培の中間管理の徹底		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月７日	場所	JA 周桑営農管理センター	
指導対象	JA 周桑米麦部会員（32 人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○令和７年産の裸麦は、水稲及び大豆の収穫遅れ、11 月上旬の多雨により、11 月中に播種できたほ場は３割程度で、多くのほ場は 12 月播種となった。 ○12 月に播種したほ場では、11 月下旬以降の気温の低い状態が続いたことが影響し、発芽が不揃いで株立数が少なく、十分な穂数が確保されない懸念がある。 ○当室では、今後の良好な出穂を促すため、JA 周桑裸麦中間管理研修会において、排水対策、踏圧、土入れ、中間追肥、除草剤散布等の適期実施について指導した。			
結果と今後	○令和７年産の対策として、生育状況に応じた適期作業の必要性が再認識された。 ○当室では、引き続き、踏圧、土入れ、中間追肥の実施の徹底に加え、春先の降雨対策として、排水対策を確実に行うことを指導する。			

室内研修

現地研修

標　題	「ひめの凜」栽培予定者への説明会		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月９日～10 日	場所	JA 周桑(営農管理研修センター)	
指導対象	JA 周桑　水稲栽培予定者（212 人）	連携機関	JA 周桑 農産園芸課	
普及指導内容	○水稲栽培期間中の高温により、多くの品種の品質が低下する中、夏の高温に強く、販売面でも有利な「ひめの凜」が着目されており、当室では、令和７年産水稲「ひめの凜」の栽培拡大を目的に説明会を開催した。 ○当室から、令和６年産の「ひめの凜」が「ヒノヒカリ」に比べ、一等比率が高いことや、生育状況、病害虫の発生とその対応状況を説明。 ○農産園芸課から、栽培者認定制度における認定基準やプレミアムクオリティ基準の見直しについて説明した。			
結果と今後	○参加した農家は、栽培課題と対応策、新たな認定制度への理解を深め、令和７年産「ひめの凜」の新規栽培や、６年産栽培面積からの拡大に意欲を見せていた。 ○当室では、今後、栽培予定者に対し、必要に応じて個別で説明するとともに、令和７年産の水稲全般について、JA 担当者と協議しながら品質向上対策を検討する。			

説明会の様子（１月９日）


説明会の様子（１月 10 日）

標　題	西条農業高校で GLOBALG.A.P.講習会を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 29 日	場所	県立西条農業高等学校	
指導対象	県立西条農業高等学校２年生(10 人)	連携機関	―	
普及指導内容	○来年度、サラダ菜の GLOBALG.A.P.の更新審査を受ける生徒を対象に、GAP の理解促進を図ることを目的とする講習会を実施した。 ○GAP はリスク評価、ルールの作成、周知・共有、記録の実施の４つを紐づけて継続的に行うべき取組みであることを説明した。 ○実践的に取り組むための導入として、ほ場地図を用いて生徒にリスクを探してもらい、リスク評価表の作成方法についての理解を図った。			
結果と今後	○参加した生徒は、GAP の概要や実践方法に対する理解を深め、来年度の認証継続に向けて意欲を高めていた。 ○当室では、来年度に GLOBALG.A.P.認証更新の内部審査を行う予定であり、今後も講習会等を通して、円滑な認証更新に向けた取組みを支援していく。			

【GLOBALG.A.P.】
GAP（Good Agricultural Practices:農業生産工程管理）は、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと。
GLOBALG.A.P.は、国際水準の取組みを指し、世界 130 か国以上で普及されている。

講習会の様子

標　題	「旬菜ボックス」の販売促進のための研修会を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 30 日	場所	四国中央市妻鳥町	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（６人）	連携機関	―	
普及指導内容	○「旬菜ボックス」の販売促進に向けて、当商品の新たな活用方法を提案することを目的に、レシピ作成のための調理の研修会を支援した。 ○当商品の農畜産物に加え、過去の研修で学び試作した味噌や麹を活用して８品を調理し、その方法を写真や動画で撮影した。 ○調理後は感想や改善点等を意見交換し、今後の打ち合わせを行った。			
結果と今後	○同組織では、今後、今回調理した料理のレシピを作成して当商品に同封するほか、撮影した写真や動画を SNS で発信することで、販売促進を図る。 ○当室では、女性農業者の活躍促進のため、引き続き活動を支援する。			

【旬菜ボックス】
メンバーが生産する米や野菜、卵を詰め合わせた商品。
インターネットで販売し、ふるさと納税の返礼品として採用されている。

調理の様子

試食・意見交換

標　題	JA うま令和７年産「ひめの凜」栽培説明会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年１月 14 日	場所	JA うま農協総合経済センター	
指導対象	水稲栽培農家（57 人）	連携機関	農産園芸課、JA うま	
普及指導内容	○「ひめの凜」の栽培面積拡大に向け、栽培希望者を対象とした説明会を開催した。 ○当管内は兼業農家が多いことなどから、昼・夜の二部構成で開催したところ、出席者は 57 人に上った（R6 年栽培者 14 人）。 ○会では、当班から、「ひめの凜」の特徴や栽培上の留意点について説明した後、農産園芸課から、一部改正された「ひめの凜」栽培者認定制度等について説明した。			
結果と今後	○参加者からは、「栽培には何か特別な肥料を施用するのか」「品質基準等はどのようにして決まるのか」等の質問が多数あり、「ひめの凜」への関心の高さがうかがえた。 ○当班では、引き続き、JA うまと連携し、栽培面積の拡大に向けた個別支援を行いながら、令和７年産「ひめの凜」認定栽培者を取りまとめることとしている。			

「ひめの凜」の説明会（夜間）

標　題	認定農業者がレモン、甘平等を視察研修		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年１月 21 日	場所	上島町岩城、今治市菊間町	
指導対象	四国中央地域認定農業者等連絡協議会川之江・新宮支部会員（７人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○国産需要が拡大し価格が安定しているレモンの生産技術や、夏季の裂果が課題となっている甘平の裂果対策について、会員の技術向上を図る視察研修を実施した。 ○しまなみ農業指導班岩城駐在所では、レモンの特性や安定生産技術について、今治市菊間町では、水田転換園で栽培され裂果が少ない甘平優良園を視察し、裂果軽減につながるほ場条件や栽培管理について研修した。			
結果と今後	○会員は、レモン栽培開始時のほ場条件や、夏秋梢を利用した着果管理、せん定方法など、安定生産技術に関する質問を行い、知識の習得を図ることができた。 ○また、甘平の裂果軽減には、土壌水分の変動を少なくする管理が重要であること、開花後に液肥を葉面散布することで割れにくい果実を作ることがポイントであることを理解した。 ○特に甘平の裂果対策については、JA 果樹部会員で情報共有し、次年度の実証試験等を経て、地域の実情に応じた対策技術の向上を図ることとしている。			

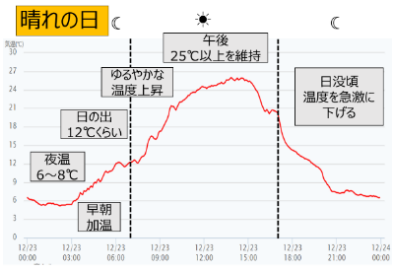
露地レモンの栽培を研修

ハウスレモンの栽培を研修

裂果が少ない甘平優良園

標　題	ベテラン世代に環境制御技術を伝える		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 14 日、１月 28 日	場所	新居浜市金栄、香川県綾川町	
指導対象	いちご生産者（10 人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	○当室では、若手生産者を中心に環境制御技術の実証試験を行っているが、親世代に当たるベテラン生産者にも理解を深めてもらうために、同技術の実践に係る講習会を開催するとともに、先進県である香川県への視察研修を行った。 ○講習会では、ハウス内温度は１時間に２℃程度ゆっくりと変化させることや、午後は25℃程度に高めるなど、いちごの生理に基づいた具体的な管理方法を指導した。			
結果と今後	○生産者からは、「他県では環境制御技術の普及が進んでいることや、単収向上の実績を知った。温度や湿度等の適正な管理方法を学んだので、香川の実績を目標に試行錯誤しながらやっていきたい」との声が聞かれた。			

【環境制御技術】
栽培施設内の温度や湿度等をモニタリングしたデータに基づいて、作物の生育に最適な環境を作り出し、収量と品質を向上させる技術。
他県では、同技術により、全国平均単収の３倍となる 10t/10a を達成した事例がある。



講習会資料の一部

先進地視察

標　題	高品質生産に向けた「しきみ」の栽培講習会		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 30 日	場所	JA えひめ未来(西条あぐりセンター)	
指導対象	「水都市」出荷者（22 人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	○「水都市」では彼岸や盆に「しきみ」の売れ行きが好調で、不足分を JA うまから仕入れている現状があり、せん定や防除を実施している生産者が少なく、高品質・安定生産に繋がっていなかった。 ○このたび、「水都市」の出荷者を対象に、「しきみ」のせん定講習会を開催した。 ○講習会では、剪定時期や方法等を説明したほか、病害虫被害の多い株や生育が滞っている株が散見されるといった声を受け、品質向上を目的に、施肥や防除についても指導を行った。			
結果と今後	○講習会後、防除やせん定方法の質問が多く寄せられ、参加者の栽培意欲向上を感じることができた。 ○なお、今回参加できなかった生産者や現地指導希望者に対しては、JA えひめ未来を通じて依頼を受け、当室が個別指導を行うこととしている。			

満席になった講習会場

標　題	ニホンザルの捕獲数が大幅に増加		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 27 日	場所	今治市朝倉上、玉川町	
指導対象	高大寺集落（４人） 奈良の木集落（２人）	連携機関	今治市	
普及指導内容	○今治市山間部の高大寺集落と奈良の木集落では、ニホンザルの出没が急増しており、20 頭以上の群れも確認されている。 ○当室では、集落内にある地獄檻での捕獲を目指し、誘因効果の高い餌付けの方法等を検討するとともに、センサーカメラを設置して地獄檻周辺の出没状況等を調査し捕獲活動を指導した。			
結果と今後	○これまでの実証により、みかんの誘因効果が高いことが確認されたことから、集落外のかんきつ生産者から供給を受け餌付けを行ったところ、両集落で、これまでに 45 頭を捕獲した。 ○捕獲後も新たな群れが確認されたことから、引き続き効果的な捕獲方法等を指導するとともに、２月 25 日に開催するサル対策セミナーでも情報提供を行う。			

地獄檻に設置したセンサーカメラ

地獄檻に捕獲されたサル

大型捕獲檻等によるニホンザルの捕獲実績

	Ｒ５年度	Ｒ６年度
高台寺集落	3	31
奈良の木集落	4	14

※Ｒ６年は１月３１日までの捕獲数

標　題	阪神・淡路大震災の復興イベントで今治特産さといも「伊予美人」を PR		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 17 日	場所	甲南大学（兵庫県神戸市）	
指導対象	越智今治農協里芋部会	連携機関	JA おちいまばり、JA 全農えひめ、県大阪事務所	
普及指導内容	○阪神・淡路大震災の節目となる 30 年の復興イベントで学生や地域住民など多くの人が訪れる中、「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」を活用し、今治特産さといも「伊予美人」の PR と販促活動を支援した。 ○当日は、実物のさといも株を展示するとともに、「伊予美人」のいも炊き 300 食を来場者に振舞い、産地ブランドを PR しながら消費者嗜好などの情報収集を図った。			
結果と今後	○展示したさといもは「どこを食べるのか」「なぜ多くのいもがついているのか」など、多くの関心が寄せられ、「伊予美人」の特徴である粘りと食味が好評を博し、温もりを感じる食材として印象を高めることができた。 ○参加した部会員は、消費者と直に触れ合うことでマーケットインの重要性を認識した様子で、当室は、今後も産地の拡大と部会活動の強化に向けた支援を継続する。			

実物を展示し「伊予美人」を紹介

300 人分のいも炊きを準備

愛媛・今治の特産品も PR

標　題	**青年農業者が「紅まどんな」ハウスの団地化に取り組む**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 30 日	場所	今治市朝倉	
指導対象	青年農業者（４人）	連携機関	今治市、JA おちいまばり	
普及指導内容	○新規就農者を含む青年農業者が「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用し、中山間地の立地条件を活かした紅まどんなのハウスの建設に取り組んだ。 ○ハウスは、当室との協議により補強した大型パイプハウスを採用しコストダウンが図られている。 ○なお、建設ほ場では、透水性を確保するため大規模な土壌改良等が行われている。			
結果と今後	○当地域では、温暖化を見据えた取組みとして、今後３年間で市内中山間地に約１ha のハウス団地が設置される計画となっている。 ○市内ではより標高の高い菊間町歌仙地区でもハウス団地化が計画されていることから、当室では、引き続き関係機関と連携して、温暖化や資材コスト高騰に対応できる競争力の高い産地づくりを推進する。			

共同設置する青年農業者

ハウスを自主施工

骨組みが完成したハウス

標　題	**スリランカ農業人材の受け入れ**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年１月７日（火）	場所	上島町岩城	
指導対象	（株）ブルーレモンファーム	連携機関	公益財団法人国際人材育成機構（アイムジャパン）、農地・担い手対策室	
普及指導内容	○かねてより監理団体と受入調整してきたスリランカの技能実習生１名（30 歳男性）が（株）ブルーレモンファーム（代表　古川泰弘）での実習を開始した。 ○同社は、農産加工等の業務拡張に伴う労働補完として外国人材に注目。 ○昨年８月にスリランカの研修施設を訪ねて本人や家族と面会し、入居施設整備等の受入準備を進めてきた。			
結果と今後	○「チャンナ」さん（社内での呼称）は、まじめで堅実な働きぶりで日本語でも何とか意思疎通ができ、大きな戦力になりそうだと高評価である。 ○当班では、同社から農業経験が浅い技能実習生に対する技術指導の要請もあることから、今後も機会をとらえて定着に向けた支援を行うこととしている。			

左：古川代表とスリランカ技能実習生
右：レモンハウスで作業中の技能実習生

標　題	**上島町への移住就農に向けた取組みを支援**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年１月 17 日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	移住就農希望者（１人）	連携機関	上島町、（株）ブルーレモンファーム	
普及指導内容	○神奈川県で自然農法を主としたかんきつ生産団体に勤務する男性が、昨年８月開催の新・農業人フェア（東京都）への参加を契機に、町の就農定住促進事業を活用して来県。町内に一週間滞在し、農業法人で作業体験を行った。 ○当班は、栽培実証技術や移住・就農に関する各種支援策を情報提供するなど、上島町への移住就農に向け、積極的に支援した。			
結果と今後	○本人は、営農手法は問わず、将来的な独立自営に意欲的であることから、レモンの減化学農薬・肥料の技術実証事例や県オリジナル品種のマルドリかん水技術の説明など、網羅的なほ場案内を通じて就農イメージの具体化を図った。 ○当班では、今後もこのようなケースを含め、本格的な移住就農に結び付けるために、引き続き技術情報等を積極的に発信するとともに、営農相談の窓口として移住就農者の知識と技量に応じた支援に取り組む。			

左：レモンの減化学農薬・肥料の技術実証事例紹介（及び果実の試食）

右：マルドリかん水技術の説明

標　題	**しまなみみんなのディッシュ会員のデジタル技術による安定生産支援**		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 23 日	場所	今治市上浦町井口	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員 （株）楽農研究所	連携機関	（株）インターネットイニシアティブ（IIJ）、やさいバス（株）	
普及指導内容	○しまなみみんなのディッシュ会員でやさいバスのメンバーでもある（株）楽農研究所は、今治市大三島でレモンの集荷と販売を行っているが、数年に一度の寒波によるレモンの障害に苦慮している。 ○そこで、トライアングルエヒメ参画企業（IIJ）の情報通信技術と各種センサを導入した寒波予測と寒害を回避した収穫に向けた取組みを支援している。 ○今回は、センサの設置状況や改善点を協議した。			
結果と今後	○モニタリング機器は IIJ が推奨する LoRaWAN 規格で露地でも広域情報通信に適していることを確認した。 ○センサの設置について、日射量計と土壌水分計の設置位置の変更を指導したほか、冷気の滞留による寒害の発生や適正な土壌水分量に関する研究成果情報を提供した。 ○今後とも、IT 企業とも連携しながらデジタル技術を駆使した安定生産につながるよう支援する。			

左：レモン園地で情報共有
右：モニタリング機器設置状況

標　題	**イタリア野菜「バターナッツ」生産推進会議を開催**		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 23 日	場所	JA おちいまばり　さいさいきて屋	
指導対象	バターナッツ栽培予定者（３人）	連携機関	JA おちいまばり、トキタ種苗（株）（株）愛媛海産	
普及指導内容	○イタリア野菜生産振興における重点品目「バターナッツ」の安定生産・出荷・販売を図るため、生産者・JA おちいまばり指導員、食品加工会社「(株）愛媛海産」による生産推進会議を実施し、栽培方法や出荷規格、販売見込み等を協議した。			
結果と今後	○次年度は３名の生産者が栽培し、さいさいきて屋を通じて（株）愛媛海産に約１ｔを販売することを決定した。 ○５月頃を目途に定植する予定であり、JA や品種育成・種苗販売を手掛けるトキタ種苗（株）と連携した種苗の確保や定期的な栽培指導を行うとともに、栽培状況や生産見込量を（株）愛媛海産と情報共有していく。			

左：説明会の実施状況
右：栽培面について説明

標　題	**担い手対策やかんきつの産地振興方策等について視察研修**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 30 日	場所	今治市役所、今治市上浦町	
指導対象	－	連携機関	松山市、東温市、JA（松山市、えひめ中央)、農村整備第一・二課等	
普及指導内容	○関係機関・団体で構成する松山地区農業改良普及事業推進協議会は、今治市において新規就農者の確保・育成やみどり戦略の推進及び基盤整備によるかんきつ園地の土壌改善について視察研修を実施した。 ○新規就農者の確保・定着に向けたサポート体制やオーガニックビレッジ宣言による今治市の有機農業者の育成、地産地消、学校給食等の取組みについて説明を受けた。 ○上浦町盛地区の西日本豪雨災害の再編復旧かんきつ園では、管内のかんきつ基盤整備園と比較しながら、土壌浸食対策や土づくり等の課題を共有するとともに、将来方向について意見交換を行った。			
結果と今後	○今治市は新規就農者のうち１割程度が有機や自然栽培に取り組んでおり、参加者は有機栽培での就農希望者への相談対応や研修制度について見識を深めた。 ○中予管内では８カ所（60ha）で、かんきつ園地の基盤整備を進めており、今後、今治地区での取組みも参考にしながら、土づくりや草生栽培による地力増進及び、スマート化による生産性の向上に努める。			

左：今治市における有機農業の取組みについて研修

右：基盤整備園地の土壌改善について意見交換

標　題	**就農予定者が天敵昆虫を利用した防除技術を習得**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年１月 23 日	場所	松山市農業指導センター	
指導対象	就農予定者（５人）	連携機関	松山市	
普及指導内容	○市の研修制度で野菜栽培を学んでいる就農予定者へ、当室が作成した「なすの天敵利用マニュアル」や昆虫の実物を用いて、天敵を用いた環境にやさしい防除技術を講習した。 ○また、久万高原農業指導班の実証ほで実施しているトマト栽培におけるタバコカスミカメを利用した防除の実証成果を報告し、天敵昆虫が活動しやすいハウス内の環境づくりが重要であることを説明した。			
結果と今後	○参加者からは、「天敵昆虫の利用方法がよくわかった」「粘着トラップや防除ネットを組み合わせることで防除効果が高まることを知った」等の声が聞かれ、知識を深めることができた。 ○引き続き、就農予定者等に対するスキルアップを通じて、担い手の確保に努めるとともに、なすを中心にトマト、きゅうり等へのタバコカスミカメを利用した防除技術の普及を図る。			

左：天敵昆虫のタバコカスミカメ（成虫）

右：天敵利用技術の知識を深める

標　題	**女性農業者等がスマート農業を学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 14 日	場所	えひめ農業未来カレッジ	
指導対象	中予地方局管内農業者組織リーダー、さくらひめメンバー、農業指導士等（27 人）	連携機関	えひめ農業未来カレッジ、農林水産研究所、中予管内市町、JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	○高い意識と行動力をもつ女性リーダーの育成や女性活躍を推進するため、女性農業者や管内農業者組織リーダー等を対象に「農山漁村男女共同参画連絡会議」と「中予地区農家女性活躍促進研修会」を開催した。 ○会議では、農業委員会や認定農業者等への女性の参画状況を確認したほか、市町や JA における取組みについて意見交換した。 ○研修会では、今後の農業経営に導入が期待されるスマート農業や現場で実装されている水田の水管理等の事例、環境モニタリング機器の活用等について研修した。			
結果と今後	○女性の活躍促進については「夫婦同伴で研修会等に参加できるような環境づくりが必要」「引き続き方針決定の場の女性参画を啓発していきたい」などの意見があった。 ○研修会では、参加者から「経験を踏まえた感覚のみで経営するのではなく、データを活用した栽培管理に努めたい」などの声が聞かれ、スマート農業技術への期待が伺えた。 ○引き続き、女性農業者に対して、定期的な栽培講習会や組織活動支援を通じて、技術力の向上やリーダーとなる人材を育成する。			

左：スマート農業や農業 DX への理解を深める

右：環境モニタリング機器の設置や活用方法を学ぶ

標　題	SNS を活用した女性農業者の先進的活動事例を研修		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 14 日	場所	西条市丹原「輝らり果樹園」	
指導対象	姫たちばな会員（８人）	連携機関	―	
普及指導内容	○中島地域の若手女性農業者が、西条市丹原町の「輝らり果樹園」で SNS を活用した取組みについて研修した。 ○経営者の金光史氏はかき、ぶどう、キウイフルーツなどの落葉果樹を夫と 1.5ha 経営し、消費者への直接販売に SNS を活用している。 ○商品紹介や自身の経営状況を発信するとともに、来園した消費者の生の声を聴くことが自らのモチベーション UP に繋がっている。 ○高台から地域の景観を見渡せるロケーションに、一棟貸の農家民宿「縁側のとき」も運営しており、昨年は年間 150 組が利用し、「丹原に来て、知ってもらう」を実践している。			
結果と今後	○参加者は、金光氏の地域の仲間と連携したパワフルな活動に圧倒され、情報発信の重要性と、活用の可能性の広さを再認識していた。 ○引き続き、女性農業者の資質向上や地域で活躍できるリーダーの育成に取り組む。			

【姫たちばな】
中島地域の若手女性農業者(10 人)で構成。技術研修や先進地視察などを通して資質向上に取り組む。

左：金光氏の取組みについて説明を受ける
右：農家民宿「縁側のとき」の内部

標　題	農業女子「葉れるや」が売れる POP づくりに挑戦		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年１月８日	場所	伊予農業振興センター	
指導対象	女性農業者組織「葉れるや」会員（８人）	連携機関	―	
普及指導内容	○「売る力が身につく POP 研修」と題してワクタルデザイン＆イノベーション代表の飯尾渉氏を講師に、女性農業者の自立と経営力向上のためスキルアップ研修を開催した。 ○研修会では「売れる POP、売れない POP」「どう書くか？よりも何を書くか？」「値決めのやり方」などについて研修した後、会員が作成した POP について講師が寸評し、具体的な POP の書き方についてアドバイスした。			
結果と今後	○メンバーは、マルシェや道の駅で農産物や加工品の販売を行っており、今回学んだ POP の書き方で更なる売上向上につなげたいと意気込んでいた。 ○引き続き、メンバーの活動や技術等の課題に対応した研修により、女性が活躍できる場を創出する。			

左：熱心に POP づくりの講義を受講
右：対面販売を想定した POP の寸評

標　題	**青年農業者が愛大留学生にかんきつの魅力を発信**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年１月 30 日	場所	愛媛県生活文化センター	
指導対象	伊予地区青年農業者協議会会員（５人)、愛媛大学留学生（５人）	連携機関	愛媛大学、砥部町	
普及指導内容	○外国人に愛媛県のかんきつに対する知識や理解を深め、魅力や強みを発信してもらうことを目的に、愛大留学生を対象にかんきつ７品種(「紅まどんな」、「八朔」、「ポンカン」、「せとか」、「はるみ」、「甘平」、「いよかん」)の試食を通じた交流会を実施した。 ○また、海外におけるかんきつの消費スタイルや嗜好等について意見交換した。			
結果と今後	○留学生からは、「日本のかんきつは高品質で美味しく、味のバリエーションが豊か」「値段が高く日常的には購入できない」「自国では、果物は安いので頻繁に購入し、朝食用のジュースに利用する」との声が聞かれ、青年農業者は消費スタイルの違いはあるものの、高く評価されていることを実感した。 ○愛媛かんきつに対する外国人の評価については、新たな販路開拓や PR の一助とするとともに、引き続き青年協議会の魅力アップとなるよう活動を支援する。			

留学生とかんきつを試食しながら意見交換

標　題	**さくらひめ生産者らが県外の市場の動向を調査**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年１月 28 日～29 日	場所	福岡県福岡市（九州日観(株)、福岡花市場、Fukuoka Effect 等)	
指導対象	伊予花き研究会員（４人）	連携機関	－	
普及指導内容	○「さくらひめ」産地の認知度向上及び販売促進を目的として「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」を活用し、福岡県での市場動向調査と「さくらひめ」の PR 活動を実施した。 ○市場担当者や大型花き専門販売店担当者と情報交換するとともに、「さくらひめ」について認知度調査のアンケートを実施した。			
結果と今後	○会員が栽培品目を記載したフライヤーを配布し、市場担当者に積極的にアピールするとともに、産地の認知度向上を図った。 ○アンケートは Web による回答にしており、後日、結果を取りまとめ同研究会にフィードバックし、今後の生産・出荷方法の参考として活用する。			

左：市場担当者との情報交換
右：作成したフライヤーを活用した PR 活動

標　題	夏秋トマトの安定生産に向けた技術普及		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和６年 12 月～令和７年１月	場所	JA 松山市久万支所ほか	
指導対象	久万高原トマト部会員（82 人）	連携機関	JA 松山市、全農えひめ、久万高原町	
普及指導内容	○夏秋トマト生産・販売実績検討会が町内の６か所で開催され、当班からは病害虫定点調査と実証試験の結果を報告。近年の気候変動に伴い病害虫の発生消長も変化しつつあることから、防除のタイミングなど次年産における注意喚起を行った。 ○実証試験の結果については、環境モニタリング機器を活用し土壌水分データに基づいた栽培管理で約１割増収したことや、天敵（タバコカスミカメ）利用で化学農薬の使用回数を 45%削減し、コナジラミ類等の害虫が慣行防除と比べて同等以下になったことを報告した。			
結果と今後	○令和６年産は夏場の高温等が影響し、出荷量は 1,191t（前年比 91%）と減少したが、全国的な品薄状態で、前年を超える高単価で推移し、販売金額は 6.1 億円（前年比 103%）となった。 ○農業者から要望の強い、高温対策や新品種の地域適応性、効果的な防除技術等について、次年度も関係機関と連携して技術実証等を行い、産地の維持･発展に努める。			

左：実証試験結果を報告
右：モニタリング機器により、土壌水分を把握

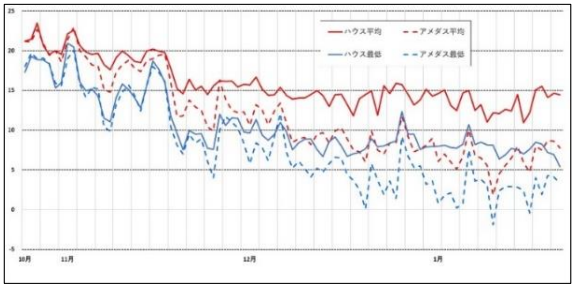
標　題	町内飲食店での雑穀料理のメニュー化に向けて		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年１月 15 日	場所	久万保健センター	
指導対象	町内飲食店５施設（８人）	連携機関	久万高原町	
普及指導内容	○地域食材「雑穀」の一種「地とうきび」を使った料理を町内に広めることを目的とし、飲食店等への参加を働きかけ「雑穀レシピ調理講習会」を開催した。 ○料理専門家の矢野邦子氏が、「地とうきび」を製粉した“はな粉”を使って考案した「キッシュ」「ポタージュ」「ドレッシング」の調理方法を学んだ。			
結果と今後	○講習会後、料理を試食した参加者は、「既存メニューに組み合わせることができそう」「思ったより使いやすかったため、今後も活用してみたい」と新たなメニュー化に前向きな意見や感想を述べていた。 ○今後も引き続き生産拡大を進めるとともに、雑穀を久万高原ブランドとして育成し、新規需要の創出や観光資源として消費拡大に努める。			

左：「キッシュ」の調理方法を学ぶ参加者
右：“はな粉”を使った「キッシュ」「ポタージュ」「ドレッシング」

標　題	「ひめの凜」認定制度の改正を周知		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 17、29 日	場所	宇和島市津島町、三間町	
指導対象	宇和島市三間（35 人）及び津島地区（40 人）水稲栽培農家	連携機関	JA えひめ南、全農えひめ、農産園芸課	
普及指導内容	○管内２カ所で開催した水稲栽培講習会の中で、今般改正された「ひめの凜」認定制度について説明し、手続きの簡略化やブランド区分の見直し等により、取り組みやすくなったことを周知した。 ○また、令和７年産から本格的に栽培が広がる「にじのきらめき」の栽培管理、南予で発生が増えているイネカメムシの対策等について指導した。			
結果と今後	○改正された「ひめの凜」認定制度については、当品種を栽培している生産者から、認定シールの使い方などの具体的な質問があった。 ○「コシヒカリ」の早期栽培が多くを占める当地域において、作業分散や高温対策、品質向上などの効果が期待される「ひめの凜」や「にじのきらめき」の導入や、地域に応じた技術の確立を進めていく。			

講習会の様子
（左：津島地区、右：三間地区）

標　題	リアルタイム低コスト施設内環境計測機器の実証		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 23 日	場所	宇和島市吉田町喜佐方	
指導対象	宇和島地区いちご研究連絡協議会	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○管内では、データ駆動型施設野菜栽培実証事業を活用し、今年度からいちご栽培を始めた新規就農者のビニールハウスに、低コスト施設内環境測定機器を設置し、温度、湿度、炭酸ガス濃度等をリアルタイムで計測している。 ○宇和島地区いちご研究連絡協議会の現地研修会を上記ビニールハウスで開催し、その結果を報告した。			
結果と今後	○管内のいちごは、11 月中旬からの気温低下で開花や着色が遅れているが、同ハウスは最低気温が７～８℃に保たれ、順調に生育している。 ○今後、当室では同計測データのさらなる活用方法を検討するとともに、地域への普及を目指す。			



左：ハウス内気温とアメダスとの比較
右：生育順調ないちご

標　題	**農福連携研修会の開催**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年１月 24 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	生産者（12 人）、研修生（４人）	連携機関	NPO 法人ひだまり工房	
普及指導内容	○生産者から鬼北地域における労働力確保対策を検討したいとの課題提起を受け、認定農業者や農業公社の就農研修生等を対象に農福連携研修会を実施した。 ○研修会では、管内福祉事業所において就労支援の技能指導に携わる実務担当者が、農福連携の必要性や注意点、事例等について説明した。			
結果と今後	○参加者からは「日頃行っている農作業の中から障がい者が行える作業を探したい」「将来的に農福連携を経営に取り込みたい」という前向きな声が聞かれた。 ○今後も、生産者と福祉事業所のマッチングを促し、鬼北地域における担い手や労働力確保を支援する。			

農福連携について講義

標　題	**地域資源の活用による水田の生産性向上を目指す**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年１月７日～	場所	広島県広島市、海田町	
指導対象	JA 水稲生産者部会員（７人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○愛南町は年間約600ｔを生産する県内有数のカキ産地であり、カキ重量の約８割を占めるカキ殻を有効活用したいとの気運が高まっている。 ○一方、当班が水稲栽培でカキ殻資材を検討した実証において、根域拡大など一定の効果が見られたことから、カキ殻を使用した土壌改良資材の製造や全国での実証結果を学ぶため、視察研修を実施した。 ○広島県の製造業者にて、全国での試験結果や果樹･野菜での利用事例のほか、実際の製造工程や品質管理について研修を受けた。			
結果と今後	○愛南町内の水田で課題となっている水稲の生産性や品質の向上には、「基本に返り、土づくりが重要」という意見が多く聞かれた。 ○町内にはカキや真珠の副産物として貝殻が豊富にあること、果樹栽培では既にカキ殻資材の導入が進んでいることなどを踏まえ、同部会でも検討を進めることとなり、当班は関係機関と連携して、令和７年度から本格的なカキ殻施用実証を計画している。			

左：カキ殻肥料の品質や施用後の効果について研修
右：製造工程と袋詰め前の製品について意見交換

標　題	つるむらさき生産者募集チラシを作成		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年１月 17 日	場所	管内全域	
指導対象	―	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○本品目は主に宇和島市三間地域で栽培されているが、今年度の販売 PR 等により、市場等から更なる生産拡大の要望もあることから、JA 管内全域への生産拡大を目指し、来年産の生産者募集チラシを作成した。 ○チラシには、JA と実施した生産者ヒアリングをもとに、労働時間や苦労する点などを整理し、新規で栽培する際の目安の規模や収益性を示したうえで、軽量かつ夏場に継続出荷できること等、品目の特徴や栽培上の魅力を盛り込んだ。			
結果と今後	○後日、更に新規栽培者に対する JA の助成措置（種苗・資材代）を追記して、JA 営農センターを通じて、管内全域に配布することとなった。 ○今後は、栽培マニュアルの作成を通じて新規生産者の栽培技術向上支援に取り組む。			

作成した募集チラシ（抜粋）

標　題	収穫期のかんきつ生産者の選果作業の省力化を目指して「AI 選果機見学会」を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 17 日	場所	八幡浜市川上町	
指導対象	かんきつ生産者等（13 人）	連携機関	(株)NP システム開発	
普及指導内容	○かんきつの家庭選果作業を省力化できる AI 選果機の普及を図るため、当室が参画する西宇和スマート農業推進協議会は「AI 選果機見学会」を開催した。 ○この選果機は、熟練を要する果実の外観評価を人工知能による画像解析技術で自動かつ高速で行うことが可能で、当日は(株)NP システム開発が国のスマート農業実証プロジェクト※により開発した「スーパー太助」を紹介し、実演を行った。 ○続いて、園地の気温や土壌水分等のデータを計測する気象ロボットを紹介し、当室がそのデータの活用により高品質のかんきつが生産できた成果等を説明した。			
結果と今後	○導入を検討している参加者は、稼働の様子を動画で撮影し、担当者に仕様の詳細を確認するなど、熱心に見学した。 ○今後も随時見学を受け入れるほか、導入に向けた相談に対応していく。			

AI 選果機による自動選果の実演

気象ロボットの紹介

※スマート農業実証プロジェクト

スマート農業の社会実装を加速化するため国が公募形式で行った実証事業で、当地区は R 元～２年度に実施した。

標　題	マンダリン・シトラス合同スクール「農作業安全講習会」を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年１月 29 日	場所	喜須来地区公民館	
指導対象	青年農業者等（13 人）	連携機関	JA にしうわ	
普及指導内容	○当室と JA にしうわは、就農初期の青年農業者や研修生に、かんきつ栽培の基本技術等を習得させる目的で、「マンダリン・シトラス合同スクール」を年６回開催している。 ○５回目となったこの日は、チェーンソー等の農業機械の取扱方法等を学ぶ農作業安全講習会を開催。 ○参加者は、当室が作成した「チェーンソーの使い方・メンテナンス」の動画を視聴した後、愛媛県林業研究グループ連絡協議会会長の菊池俊一郎氏指導の下、各自が持参したチェーンソーや草刈機等を使ってメンテナンスの実習を行うとともに、安全な使用方法について学んだ。			
結果と今後	○参加者からは「メンテナンスを学ぶ良い機会になった」「刃の目立てが一番難しいからもっと詳しく知りたい」などの感想が聞かれた。 ○次回は３月にせん定講習会を開催する予定。			

左：チェーンソーの安全使用に関する講義
右：メンテナンスの実習

標　題	大洲喜多地区の担い手農業者等が「上手な農薬使用法」を学ぶ		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年１月 16 日	場所	内子町　五十崎自治センター	
指導対象	大洲喜多地区認定農業者協議会	連携機関	(公社)緑の安全推進協会 大洲市、内子町	
普及指導内容	○同協議会は「農薬の上手な使用法について（基本に立ち返る）」と題した研修会を内子町五十崎自治センターで開催した。 ○近年、定年退職者やＩターン移住者など就農して間もない会員が増えており、農薬の知識についても「基本に立ち返って」学び直したいとの同協議会の意向を受けて、当班が企画、運営を支援し、青年農業者や新規就農者を含む 36 人が出席した。 ○(公社)緑の安全推進協会から佐野講師を招き、農薬の役割や適正使用、マスクの正しい知識に至るまで、丁寧で分かりやすい講演により知識習得を促した。 ○また、作業受託を行っている会員からドローン防除に関する PR も行った。			
結果と今後	○質疑では農薬使用に関する多くの質問が出され関心の高さが伺われるとともに「改めて基本を学ぶことができた」「わかりやすく理解が深まった」と好評であった。 ○当班では引き続き関係機関と連携して現場ニーズの高い研修の開催を支援し、地域の担い手である認定農業者等の資質向上を支援する。			

熱心に学ぶ参加者

標　題	かきの摘蕾作業の省力化に向けた実証を開始		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年１月 23 日	場所	内子町大瀬	
指導対象	JA 愛媛たいき柿部会	連携機関	―	
普及指導内容	○かきの摘蕾作業は果実肥大を促進させるために重要な管理であるが、作業適期が短く適期を過ぎると花梗が硬化し作業効率が低下するだけでなく小玉化を招く。 ○経営規模が大きい一部の篤農家では、冬季の剪定時に結果母枝の先端数芽を切り返すことで摘蕾・摘果の省力化を図っている。 ○そこで当班は、着花（果）管理における当技術の省力効果を明らかにするため現地実証を開始した。			
結果と今後	○着花量が他品種より多く摘蕾に時間がかかる「刀根早生」において、長さ 20cm 以上の結果母枝の先端２芽を切り返し処理した。 ○今後、着花量や摘蕾・摘果にかかる作業時間、果実品質、収量などを調査し、技術の効果を検証し産地への普及を目指す。			

左：切り返しせん定の基準

右：実証ほの設置

標　題	大洲技連野菜部会で高温期対策について検討		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年１月 27 日	場所	JA 愛媛たいき	
指導対象	JA 愛媛たいき野菜営農指導員	連携機関	JA 愛媛たいき、全農えひめ、病害虫防除所	
普及指導内容	○大洲喜多地区農業技術者連絡推進会議野菜部会（大洲技連野菜部会）では、近年、大きな問題となっている夏秋季の高温による生育不良や品質低下及び病害虫発生パターンの変化等を踏まえて、共販野菜 12 品目の栽培指針を検討した。 ○当班から、夏秋野菜の生育期及び冬春野菜の育苗期への影響について説明した後、品目ごとに対策を検討した。			
結果と今後	○管内野菜の高温期対策を次年度の栽培指針に盛り込むこととした。 ○実証成果が上がったものは他品目への波及を目指すことを申し合わせるとともに、大きな影響を受けたきゅうり、トマト、すいかについては「高温耐性品種の試験導入を検討すべき」などの意見があり、高温対策の必要性を技術者間で共有できた。 ○今後、当班は関係機関と連携しながら、遮光資材・機能性肥料、IPM 技術、品種試験など、高温対策技術の普及に向けた実証を行う予定。			

技術者で高温期対策を検討

標　題	**若手女性農業者組織が SNS 研修会を開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年１月 15 日	場所	西予市役所	
指導対象	フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～会員（10 人）	連携機関	―	
普及指導内容	○西予市内の同若手女性農業者組織から、農業経営に効果的に SNS を取り入れたいとの要望を受け、当班が研修会を企画・運営支援した。 ○講師から、各 SNS の特徴やユーザーに関心を持ってもらうための投稿のほか、Canva（画像デザインソフト）の使い方について、実際にスマートフォンからログインし、実習した。			
結果と今後	○参加者からは、「インスタグラム等での情報発信が十分にできていなかったが、今回の研修で、ステップアップできる」などの感想が聞かれた。 ○会員のやってみたいことを形にし、活動を充実させている同組織に対し、次代の女性農業者育成のため、引き続き伴走支援を行う。			

左：講師による説明
右：会員同士情報交換しながらの研修会

標　題	**データ駆動型農業に向け自作の環境測定装置を設置**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年１月 20 日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	大野ヶ原にんにく組合員	連携機関	西予市	
普及指導内容	○標高 1,100m を越え冷涼な気候の大野ヶ原で、気象条件に応じたにんにく栽培の高度化を目指し、自作の環境測定装置を作成し、ほ場の気温・湿度・日照を測定した。 ○主に気象条件による玉太りについて調査するため、継続してデータを集積するとともに、装置の稼働状況の報告を兼ね、12 月 20 日からの約 1 か月間の測定結果を同組合の意見交換会で生産者に提供した。			
結果と今後	○生産者からは「大野ヶ原は西予市内の他地域の数値が参考にならないのでありがたい」「雪解け以降の暖かくなってからの数値についても知りたい」などの意見があった。 ○当班では、今後も気象データと生育状況について調査し、データを活用した農業への取組みと、寒地系にんにくの産地化について支援する。			

左：自作の気象観測装置
右：取組について生産者へ報告

標　題	データ駆動型栽培に係る第２回データ分析・活用講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年１月 16 日	場所	農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等（40 人）	連携機関	JA、普及拠点等	
普及指導内容	○モデル農家（いちご・きゅうり・トマト）の園地に設置したモニタリング機器で計測したデータを栽培管理に活用するため、第２回データ分析・活用講習会を開催。 ○株式会社誠和。からは「環境データを利用した栽培管理について」「環境データ活用ワーク」の２つのテーマで講演を行った。 ○「活用ワーク」では実際に現場のモニタリング機器で計測したデータを見ながら、植物にとって理想的な環境に近づけるための管理法を考察した。			
結果と今後	○今回は特にかん水に重点を置いた内容で、今後暖かくなるにつれてかん水量が不足しやすくなる中で、適切なかん水を意識づけることができた。 ○講演後の質疑では「適切なかん水量を確認する方法」「理想的な環境データの数値」などについて多くの質問があり、関心の高さがうかがえた。 ○当グループでは今回の内容を踏まえた指導を継続し、データ活用による生産性の向上を目指す。			

環境制御についての講習

標　題	若手職員が地域課題を解決するプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年１月 27 日	場所	県庁第一別館	
指導対象	採用２・３年目普及職員（14 人）	連携機関	―	
普及指導内容	○採用２・３年目の普及職員 14 名が担当地域の課題解決に向け、それぞれ技術実証を行うプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催した。 ○同プロジェクトは若手職員の現場での指導力の向上を図るもので、発表では、自らが抽出した課題に対する普及活動や調査の結果が報告され、会場からは活動に対する生産者の反応や地域の実情等について質疑が行われた。			
結果と今後	○若手職員は活動を通じて、普及活動や栽培に関する技術の向上がうかがえた。 ○今後、今回の質疑やアドバイスを参考にして、一年間の活動結果をとりまとめることとしている。 ○当グループでは、今後も若手職員への指導を継続的に行い、同プロジェクトを通じた技術継承やスキルアップを図る。			

活動内容を報告する普及職員

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543